

JFW INTERNATIONAL FASHION FAIR



JFW INTERNATIONAL FASHION FAIR

カスガアパレル「匠の染め工房」

草木、ベンガラ
使い製品染め

メイド・イン・ジャパンが強みの出展者

カットソーの企画・縫製のカスガアパレル(大阪府)と村田染工、ナカジマはチームを結成し、カットソーの製品染めOEM(相手先ブランドによる生産)を開始する。「匠の染め工房」シリーズとして打ち出す。

特徴は染め。村田染工は京都市内にある染工場、千利休も使ったとされる地下水で草木染めを行う。草木染は中間的で優しい色、底光りや渋み、深みのある色が出る。

ナカジマ(大阪府)は、土から取れる最古の顔料、ベンガラ(酸化

鉄)を使い、ベンガラ染め「古色の美」の板締め絞りを行う。板締め絞りは生地を何層にも折りたたみ、白く残したい部分を木の型で挟み、染める。どの工程も手作業のため、にじみ方や模様が微妙に異なり、味わいがある。

カスガアパレルは、国産生地を国内で縫製する純国産(出し値1枚1500~2000円)をはじめ、要望によって国産生地、中国縫製、韓国生地、日本縫製、韓国生地、中国縫製(約1200円)に対応する。その他、刺繍、グラデーション染めやボウダ



ベンガラ染めのチュニック

ー染め、マーブリング染めなども可能。同社は製品OEM開始から10年、企画力を強みとしてミセスを中心に事業を広げてきた。カジュアル化の流れが強まる中、顧客からの要望も多かった製品染めに対応し、キャリア市場も開拓する。